

2018年

# 中国語短期語学研修報告書

8月19日～9月1日

於：北京外国語大学



お茶の水女子大学

中国語圏言語文化コース

## はじめに

中国語圏言語文化コース 和田 英信

2015年から始まった中国語短期語学研修は、今年で4回目を迎えた。今回は、第1回から第3回まで本研修に携わってくださった馮曰珍先生と曹泰和先生に代わり、新たに水津有理先生、陳曉先生のお二人に研修の計画立案ならびに実施時の引率をお願いすることとなった。お二人の献身的なご尽力をいただきながら、ほぼ順調に二週間の日程を終えることができた。研修先はこれまでと同様、交流協定校である北京外国語大学。参加者は日本学生支援機構（JASSO）ならびに本学独自の奨学金の支援を受けた。

日程が前年よりもやや後ろに移動したこともあり、比較的過ごしやすい気候のなかで研修を行うことができた。また、宿舎が昨年の北外賓館から授業の行われる教室に近い留学生宿舎にかわったこともあり、日々の生活にもわずかながら時間的なゆとりが生まれたように思う。

学生たちはこれまでと同様、午前の授業に真剣に取り組むと同時に、午後の自由時間には北京の街中に積極的に出かけて現地の人々と交流し、習い覚えたばかりの中国語を試す好機とした。学生たちには事前に、「北京私的〇〇案内」というレポートを作成し帰国後にPPTにまとめて発表するという課題を与えたが、六つに分かれた各グループの報告はいずれも充実した内容であった。

「企業体験と異文化交流を組みこんだ中国語研修」という本研修のテーマに相応しく、今回もまた在北京日本大使館を訪問することができた。大使館の広報文化センター見学のものち、大使館員の方々からお話をうかがう時間を設けていただき、館員の方々のこれまでのご経歴や在外公館の職務についてなど、貴重な知見を得ることができた。

また、キヤノンの現地法人である佳能情報技術有限公司を訪問し、職員の方々から日本人と中国人がともに働く職場のこと、また海外で働くことの意味についてなど、多くの興味深いお話をお聞きした。

公的機関と企業の両方を訪問し、スタッフの方々とは交流する機会を得たことは、学生たちにとって将来の大きな財産となることだろう。「学生時代になすべきこと」というアドバイスは、とりわけ参加学生の印象にのこったようだ。お忙しいなか貴重なお時間をさいて下さった在北京日本大使館ならびに佳能情報技術有限公司の方々に、あらためて厚く御礼申し上げる。

北京外国語大学留学生弁公室の先生方、学生たちを直接指導して下さった成苗先生、陳晶晶先生、昼夜を分かたず学生たちに寄り添ってくれたアドバイザーの彭語心さん、ならびに本学グローバル教育センター、国際課、毎日エデュケーションの方々、本研修の実施にお力を賜ったみなさまに感謝申し上げます。

## 目 次

はじめに 中国語圏言語文化コース 和田 英信

研修日程

学生レポート

猪狩 亜月	生活科学部人間生活学科 1年
大谷 果穂	文教育学部言語文化学科 2年
小笠原 咲	文教育学部言語文化学科 2年
工藤 李紗	文教育学部言語文化学科 1年
小島 佳奈美	生活科学部心理学科 1年
小山 優里香	文教育学部人文科学科 1年
柴田 佳乃	文教育学部人文科学科 1年
新藤 由芽	生活科学部食物栄養学科 1年
寺澤 貴恵	比較社会文化学専攻博士前期 1年
照井 雪乃	理学部情報科学科 1年
中村 友泉	生活科学部心理学科 1年
馬場 千寛	文教育学部言語文化学科 1年
濱野 優	文教育学部言語文化学科 2年
原 有佳里	文教育学部言語文化学科 1年
星野 伶奈	文教育学部人文科学科 1年
松本 季依	文教育学部言語文化学科 2年
水野 佳菜	生活科学部食物栄養学科 1年
望月 優里	文教育学部言語文化学科 2年
山口 明華	文教育学部言語文化学科 1年
山本 結智	文教育学部人間社会科学科 1年
吉川 雪絵	文教育学部言語文化学科 1年
吉田 恵	文教育学部言語文化学科 2年

アドバイザーから

北京外国語大学 彭 語心

引率教員から

外国語教育センター 水津 有理

外国語教育センター 陳 暁



## \*\*\* 研修日程 \*\*\*

		午前	午後
8月19日	日	9：10発JL-021便 北京へ	12：05 北京首都国際空港到着 北京外国語大学宿舎チェックイン 生活準備
8月20日	月	開講式・クラス分け試験・中国語授業	昼：歓迎会 校内参観
8月21日	火	8：00-12：00 中国語授業	
8月22日	水	(50分×4コマ)	天安門広場・故宮博物院・景山公園見学 夕食後：雑技鑑賞
8月23日	木		在北京日本大使館訪問
8月24日	金		
8月25日	土	終日：自由行動	
8月26日	日	終日：万里の長城・明の十三陵見学	
8月27日	月	8：00-12：00中国語授業	
8月28日	火	(50分×4コマ)	国家博物館 夕食後：京劇鑑賞
8月29日	水		佳能情報技術有限公司訪問
8月30日	木		
8月31日	金	修了試験	昼：歓送会
9月1日	土	16：30発 JL-022便 帰国 21：05 羽田空港到着 解散	



## \*\*\*学生レポート\*\*\*

### 北京語学研修を終えて

生活科学部人間生活学科1年 猪狩 亜月

大学生になったし留学に行くべきだな、行くなら早い方がいいだろうと勢いで申し込んでしまったのですが、前期の中国語の授業に着いて行けず、出国1か月前頃には北京に行ってもどうにもならないだろうなという気持ちでいました。正直キャンセルしようかと直前まで悩んでいました。しかし思い切って行ってみると、先生は優しく、中国語で行われる授業も易しいところから始めて下さり、同じお茶大生に囲まれて安心していられるので、杞憂だったなあとすることができました。

この2週間で中国語への苦手意識が大幅に薄れました。中国語の授業をとっている人の中でも、長い夏休みの間にちゃんと復習する人は結構少ないのではないかなと思います。夏休み明けで皆が中国語を忘れてしまっても、2週間みっちり勉強した参加者は自信を持って授業に出られるというのはこの語学研修のメリットの一つだなと後期になって思いました。前期の終わりにはもうだめだ、後期の中国語はとるのをやめようと考えていた私でしたが、語学研修の経験が支えになり授業に出られています。

私は極端なインドア派で、長期の休みがあっても家で寝てほとんどの時間を溶かしてしまうことが多いので、この語学研修に申し込まずにいたらずっと家に引きこもっていたのだろうと思うとぞっとします。こんな私ですので、研修に参加した他の方々よりも、初めての経験をたくさんさせていただいたと思います。慣れない言葉と通貨を使って街を歩くことはもちろんですが、個室を与えられて自分で環境を整えることが新鮮で、手洗いの石鹸やスプーンなどの食器をあって当たり前のものだと思い忘れてきてしまったために、持ってきたパックのお粥ですら食べることができず呆然としたりしました。自分がいつも如何に整えられた環境の中にいるのかを実感しました。

在北京日本大使館やキャノンで、日本に留まらず世界でお仕事をなさる方々のお話が直接お聞きできたことが今回の研修で一番貴重で意義のあることだったと思います。日本の外から見た日本の話というのは日本にこもっているとなかなか聞くことができず、普段当たり前前に思っていることを疑問視するきっかけも得られません。

世界の中で見ると、日本が異常に整いすぎているのだということも大使館の方のお話で初めて知りました。海外に行く価値観が変わるとはよく言われますが、実際にそれは正しく、自分のいる環境を相対化することができるようになるのだと思います。家にこもらずに北京に行って本当に良かったです。この2週間は人生の財産になりました。

### この研修で得たもの

文教育学部言語文化学科日文コース2年 大谷 果穂

午前中に授業、午後に自由時間、というスケジュールはかなりハードでしたがとても充実したものでした。インプットしたものを即時的にアウトプットすることができ、テキストの中だけでは学ぶことの出来ない、実践的な“生きた中国語”に触れることが出来ました。午後は中国のありとあらゆる名所を（と言ってもほんの一部にすぎませんが）巡り、広大さ、壮大さを目の当たりにしてその魅力に酔いしれました。現地の人との会話を耳にするだけでも良い刺激でしたが、中でも街に買い物に出るのは非常に有効な、かつコミュニケーションの楽しさを味わえる最高の手段だと思います。授業では自己紹介、買い物、外食、道案内及び尋ね方、タクシーの乗り方、家探し、診察など豊富なバリエーションの会話を学びました。面白いことに、私はそれらほとんどの会話を実際の場面で見聞き、或いは体験することになりました。家探し、診察のシーンをまさか授業から程なくして体験することになるうとは、授業で必死になっている時には想像だにしませんでした。研修最終日、帰国日の朝、私はえも言われぬ腹痛と吐き気に襲われ5時間程を苦痛の中で過ごしたのですが、不思議なことにその日の経験は他の貴重な経験にも匹敵する程得難い体験として記憶に刻みこまれています。症状を説明して下さる先生、薬の説明をして下さる看護師さんなどの口から次々と教科書で習ったばかりの言葉が沢山紡がれている折節、ベッドの上で憔悴していた私は天井を眺めながら「ああ、本当にこう言っているのが何となく聞き取れる、すごい」と飛び交う中国語に恍惚と耳を傾けていたのを覚えています。普通なら体調を崩した思い出は苦いものとなるのかもしれませんが、私の場合、近くの部屋にいた友人、そして朝早くから病院に付き添ってくださった陳先生、アドバイザーの彭さんが親身にいたわってくださったおかげで、優しさに溢れた温かい思い出として心に残ってい

ます。また、帰国直後、アルバイト先の不動産会社に中国人のお客様がいらっしやった時の驚きはこれまた大きなものでした。病院に導かれたことといい、何か縁のようなものを感じてしまいました。

語学面はもとより、大使館訪問、Canon訪問などおそらくこの先ないであろう機会にも恵まれました。大使館では日本と世界各国の相違や三者三様の考え方、生き方を知ることが出来、視野を広げられたような思いであります。日本で安穩とただ与えられるままに疑心も抱かずサービスを楽しんでいた自分にはたと気がつきました。Canon訪問では日本の技術の優れた点を見られるのかと思いきや、それだけではなく、現在の中国の目覚しい発展及びその背景、日本のスタンスとの相違を、他でもなく実際に最前線にいらっしやる方々から、それぞれ実感のこもったお声を聞くことが出来、企業就職を考える上での参考になりました。

大使館の皆さん、Canonの皆さん、アドバイザーの彭さん、北京外国語大学の皆さん、そして引率して下さった先生方と、研修をともにしたお茶大生の皆さん。関わって下さった全ての方のおかげでこの先又とない2週間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

## 2回目の中国

文教育学部言語文化学科日文コース2年 小笠原 咲

今回の語学研修に参加したのは、二度目である。昨年この研修に参加した私は、見事リピーターになった。中国語も学べて、先生方や現地の方に引率していただいて各名所をまわるといった機会はそう無い。また私は軽い気持ちで北京に行くことを決めた。

北京外国語大学で受ける授業はそのほとんどが中国語で行われ、時折英語を交えながら進められる。テキストの内容を踏まえて会話を作文し、それを実演したり、中国語の歌を歌ったり、ちょっとしたゲームをしたり。そして先生が明るく、毎日の授業が楽しかった。果物と野菜の名前を勉強してから、先輩の誕生日をレストランで先生と一緒に祝いしたのが思い出に残っている。

授業は午前のみで午後は自由行動のため、行ってみたいところに好きに行くことができる。地下鉄やバス、タクシーなどの交通機関が日本に比べてとても安く、日本と同じく交通カード（一卡通）で何処へでも行ける。そして、昨年はチャレンジできなかったいわゆるチャイナ服

を着て観光する、というのに挑戦した。好きな色とデザインを探してあちこち見て歩き、前門で安いお店を発見した。個人経営のお店なんかでは値切りやすいので、交流目的でぜひお店の方々と会話をしてほしい。そこで実感したが、去年と明らかに変わったことは、自分自身の中国語に対する自信である。観光先のお店の人との交流や街中で出会った人たちとの交流に積極的になれたのは、昨年よりも語彙が増え、知っている文法も増えたからだ。相手の中国語が聞き取れた時の喜びや自分の中国語が通じた時の喜びが自信につながり、積極的に会話しようとする姿勢につながった。

自分達で自由に見てまわるのもよかったが、全員で訪れた場所ではガイドさんの説明を聞きながら見学でき、個人旅行ではなかなかできないことができたというのが大きかった。キヤノンに訪問して貴重なお話を聞けたり、日本大使館職員の方々とお話をする機会にも恵まれ、本当に幸せな2週間だった。

今回北京を訪れるのは2回目だったが、飽きることなくまだまだ見足りないところがたくさんあった。北京も中国も広い。そして変わり続けている。街中を行き交う自転車は乗り捨て自由に誰でも利用できるし、携帯アプリでの決済機能を利用して店での会計を済ませ、現金を持たない人もいる。かと思えば観光地で1円でアイス売っているおばさんがいたり、お腹を出して歩いているおじさんがいたり。あちこちに親しみを残しながらも、新しいものを取り入れている。ぜひ一度、その空気に触れて見てほしい。

## 北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科1年 工藤 李紗

今回2週間の研修を通して、私は多くのことを学ぶことができました。入学前にこのような研修があることを知り、参加するのをとても楽しみにしていました。とはいえ、家をこんなに長く離れるのは初めてだったので不安な気持ちもありました。しかし、実際に参加してみると2週間では足りないくらいで、ホームシックになる暇もないくらい楽しかったです！中国に行ったのは今回が初めてだったのですが、行く前と比べて中国への印象は180°変わりました。前は中国に正直あまり良いイメージを持っていなかったのですが、店員さんはみんなフレンドリーで気軽に話しかけてくれたりして、やっぱり行ってみるものだなあと思いました（まさに「百聞不如一

見」！)。

北京に着いた次の日にクラス分けテストがあり、その次の日から授業が始まりました。授業はすべて中国語で、ときどき英語も交えて進んでいきます。思っていたよりも先生のおっしゃっていることが聞き取れて嬉しかったです。授業では歌を歌ったり、ゲームをしたりもしてとても楽しみながら中国語を勉強できました。先生が北京のおすすめの観光地なども教えて下さったので、午後もより効率的に観光できたかな、と思います。

午前の授業が終わって、午後は北京を散策しました。自由行動では頤和園、前門、王府井、南鑼鼓巷、西単、海淀黄庄、円明園など多くのところに出かけました。特に3日目に頤和園に行ったことが強く印象に残っています。私たちは地下鉄4番線で西苑まで行き、東宮門から入りました。東宮門から入って北宮門から出るのがオーソドックスなルートらしいのですが、私たちは何を思ったのか北宮門で頤和園を出る直前まで行ったにもかかわらず、南に向かって歩き始め…迷子になってしまいました。最終的には運良く最終の船に乗ることができて東宮門まで帰ってこれることができました。とっても疲れましたが(一日で16km歩きました)、行ってすぐにこのような体験をしたことで、それ以降「とりあえず行ってみるか/やってみるか」という考え方をすることができるようになったと思います。

今回の研修で学んだことは、やはり教科書の勉強だけでは限界があるということです。行く前は「話してみたらどうかなるのではないか」という甘い考えがありましたが、現地の人と話してみると会話表現や省略など教科書でやった表現と多くの違いを感じました。知って特に面白いなと思ったのは、中国人同士で挨拶をするときは「你好」ではなくて「你吃了嗎(ご飯食べた?)」とよく言うということです。このようなことは実際に現地に行ってみなければ分からないことなので、参加して本当に良かったと思いました。

北京で過ごした2週間は、日本にいただけでは味わえない貴重な体験がたくさんできました。お茶の水女子大学ならびに北京外国語大学の先生方、アドバイザーの彭さん、大使館やキャノンの皆さん、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました！この研修で得たことをこれからの学習にいかしていきたいと思えます！



頤和園の仏香閣

## 北京での日々

生活科学部心理学科1年 小島 佳奈美

私がこの語学研修に参加した一番大きな理由は、大学在学中に一度は海外に行って自分の知見を広げたいと思っていたからです。また、自分と同じ一年生のほとんどが中国語初心者であるという安心感もあり、中国語の語学研修に参加することを決めました。

中国での生活は毎日が新しいこと尽くしで刺激的でした。平日の午前中は大学で授業を受け、午後は観光をし、土日は一日全体行動で観光をするといったスケジュールでした。授業は基本的に中国語で進められましたが、できるだけ簡単な言いまわしを使い、時には英語を交えるといった工夫を先生がしてくださったので、前向きに取り組むことができました。また、中国語の歌や映画を使った授業もあり、楽しみながら取り組むことができました。午後と全体行動での観光では、西単や王府井、北京動物園、盧溝橋、故宮、大使館、キャノン見学などに行き、京劇や雑技の鑑賞をしました。特に、万里の長城や円明園に行った時は、世界史の教科書に載っていた歴史的建造物を実際に目にすることができてとても感動しました。観光中に、時々買い物をしたお店で店員さんが話しかけてくれることがあったのですが、授業とは違って本場の中国語はとても早口で聞き取れず、悔しい思いをしたことをよく覚えています。また、英語で意思疎通を図っても中国語でないと聞いてもらえないことがあって苦労はしましたが、それを中国語の学習のモチベーションに繋げて取り組むことができました。

生活面では、日本との文化の違いを強く感じました。トイレットペーパーはトイレに流せない、観光地のトイレはたまに有料、仕事中でもかなり自由に過ごしている、

自転車をレンタルで乗り捨てできる、車が止まるのを待つのではなく自分でタイミングを見計らわないと道路を渡れない、ほとんどの会計を現金ではなく電子決済で行うといった日本では見られない文化にたくさん触れました。また、初めは抵抗を感じていた、良くも悪くも周りをあまり気にしないという中国独特の環境にもすぐに慣れ、中国ならではの生活を楽しむことができました。

中国に行く前は、正直なところ、治安や食事、衛生といった面で大きな不安がありました。しかし、実際に行ってみると日本にいたときとは違った視点で中国という国を捉えられるようになり、視野が広がったと感じます。日本では中国に関する悪いニュースが目立つ印象がありますが、その国のことは実際に行ってみないと真に理解することはできないのだと実感し、自分で経験することの大切さを学びました。このような機会をくださった北京外国語大学の先生方、キヤノンの皆様、日本大使館の皆様、お茶大中国語の先生方、アドバイザーの彭さん、一緒に研修に参加したお茶大の皆さん、本当にありがとうございました。ここでの学びをこれからの生活でも生かしていきたいと思います。

## 中国研修を終えて

文教育学部人文科学科1年 小山 優里香

二週間にわたる中国研修は、とても貴重で、良い経験になりました。

平日の午前は授業でした。50分授業×4コマは90分授業に比べ、集中して取り組むことができ、短期間でたくさんの単語や簡単な会話文を覚えることができました。また、覚えたことを午後の自由行動ですぐに使えるので、お店で注文したり、トイレはどこか聞いたりすることができました。北京中心部や観光名所では、英語を使える人が多いのですが、北京外国語大学周辺は英語がほとんど通じず、中国語を使わざるを得なかったため、授業で学んだことや、自分で事前に学習したことを活かしてよかったです。

この研修期間中に様々な場所に行きました。その中で印象に残っているところを3つ紹介します。

まず、万里の長城です。現存するものは明の時代に作られたものですが、今のように便利な機械があるわけでもないのに、大規模で頑丈な壁が果てしなく続いていて感動しました。私は、簡単に上のほうまで登れるだろうと思っていましたが、階段一つ一つの段差が極端に高

かったり、低かったりと高さが一定ではなかったため、足腰に負担がかかり、登って5分もしないうちに疲れ始めました。ですが、私の隣を歩いていた中国人観光客の方と励ましあって頑張った結果、上にあるお土産売り場まで辿り着きました。中国はフレンドリーな人が多く、街で道に迷った時も、英語を使って丁寧に教えてもらいました。上まで行くと、少し曇っていましたが、延々と続く万里の長城を見ることができました。

次に中国のショッピングモールを紹介したいと思います。中国も日本と同様、ショッピングモールがたくさんあり、お店も充実しています。日本でよく見かけるお店もありましたが、もっと面白いものがありました。それはUFOキャッチャーです。日本では一回100円以上はしますが、中国ではなんと一回1元（日本円で約16円）から楽しむことができます。景品を取るのは、難しかったのですが、気軽に楽しむことができるので、よかったです。日本にもこんな安いUFOキャッチャーがあったら、と思いました。

最後に紹介したいのは、北京動物園です。とても広いのですべて回りまわることができませんでしたが、最も楽しみにしていたパンダを間近で見ることができてよかったです。1年以上前に上野動物園で生まれた香香（シャンシャン）が今でも大人気であるのと同じように、中国でもパンダは大人気のように、とても混雑していました。

中国での二週間はあっという間で、様々な経験をすることができました。私は中国語専攻ではないですが、これからも中国語の勉強を続け、また中国に行きたいと思っています。



▲笹を食べているパンダを見られました。

## 北京研修を通して

文教育学部 人文科学科1年 柴田 佳乃

私が北京研修への参加を決めた理由は、中国に行ってみたかったからと単純であった。入学してすぐ、北京研修の存在を知った私は、中国の文化や雰囲気を自分自身の目で見て感じ、中国語を学んでいくモチベーションにしていきたいと考え、参加を決めた。

北京で過ごした二週間は、とても有意義なものであった。北京外国語大学での計10日間に及ぶ授業はもちろんのこと、研修に参加する全員での北京観光や企業訪問、友人たちと過ごした自由時間なども、私の中ではとても思い出深い。

まず授業についてであるが、50分の授業を一日4コマ、それを月から金、計10日間受講した。先生は30代くらいの中国人の女性の方で、笑顔が素敵などとてもやさしい方だった。日本で受けていた授業と違っていたところは、すべて中国語で行われたこと、毎日小作文の宿題が出ていたことなどである。それまでのお茶大の授業で習った内容と被る部分があれば、全く新しい知識などもあり、少し大変であったが面白かったので頑張れた。また、授業内で行った中国語の単語がお題となるジェスチャーゲームなども楽しかった。授業と授業の間の休憩の時間には、中国の映画や歌などを先生が見せてくださった。行く前は授業についていけるのか、楽しめるのか不安に思っていたが、とても楽しく学べたうえ、中国の文化に親しむこともできた。

次に、北京内の観光についてである。私が特に印象に残っているのは、万里の長城だ。印象に残っている理由としては、歴史や地理ですでに学んだことがある場所であったこと、想像以上に登るのが大変であったことなどを挙げたい。写真や映像で見たことはあったものの、実際に見てみると、その迫力に圧倒された。ただ、訪れた日が猛暑日で、八割くらいまでを上ったところでもう登れないと感じて引き返してきたことには悔いが残っている。次訪れた際には山の頂上まで登る挑戦をしてみた。

そのほかにも、自由時間を利用して様々な場所を訪れた。きれいな景色やおいしい食事、お土産選びなど、とても楽しかった。また、研修中に訪れた大使館やキャノンでは、そこでしか聞くことのできないお話を伺うことができ、日本ではできない貴重な体験ができたように思う。

二週間の北京研修を通して、文化や風土を身近に体験することができ、とても良い経験ができた。街の中では言葉が通じず困った場面もあったが、同時に自分の言葉で会話できたらなど、中国語学習への意欲の向上につながった。次に中国を訪れる機会があるとなれば、今回よりも中国語が話せるようになってから行きたい。そのためにも、これからの中国語学習を頑張っていこうと思う。

## 行き当たりばったりの2週間

生活科学部食物栄養学科1年 新藤 由芽

振り返ってみると2週間の研修は楽しいこと、驚くこととの連続であつという間でした。下調べをあまりしないまま研修の日を迎えてしまったので、初めはかなり不安でした。しかし、現地の先生やアドバイザーさんにおすすめの場所を聞きながら、行き当たりばったりで様々なところに行き、楽しむことができました。研修に参加する前は、正直中国に対してあまり良いイメージを持っていませんでした。というのも、日本のメディアでは、観光地でルールを守らないなど、中国人のマイナスな部分を取り上げられていることが多かったからです。しかし、実際は気さくに話しかけてくれる人がたくさんいて、優しい人が多い印象でした。

日本と比較すると、店員さんの対応が素っ気ないので、初めは「怒っているのかな」と不安になりましたが、実際は怒っているのではなくそれが当たり前なのだとなりました。研修が終わるころには、逆にそうした対応が気楽で良いと思うほどでした。サービス料があるレストランなどでは、細かい部分まで気にかけていただきました。また、日本ではこれと同様のサービスが、お手頃なファミレスでさえも徹底されていることに気がつきました。中国に来たことで初めて、日本の飲食店の行き届いたサービスの素晴らしさに気づくことができました。

買い物をするときや食事の注文をするとき、想像していた以上に、自分が伝えたいことが伝えられず、もどかしい気持ちになりました。また、相手が話している内容がなかなか理解できず、言葉の壁を実感する場面も多かったです。研修前は中国語が通じない時は、英語で話せばなんとかなるだろうと安易に考えていましたが、街に出ると英語が通じない場面も多く、自分の考えが甘かったことに気がつきました。(英語で話しかけられた場面もあったが、そもそも自分が英語を話せないと感じていたことに関しては黙っておこうと思う。) どうしても

わからないときは、「我是日本人。」と言うと、納得した表情で簡単な中国語で話しかけてくれたり、メニュー表を指さしながら教えてくれたりしました。何かと便利な言葉なので、中国に行くときこの言葉を覚えておくと良いと思います。

現地の日本大使館の方が、「中国人の行動力はすごい。日本人は失敗を恐れる傾向にあるが、中国では『失敗したらまたその時に考えれば良いじゃん。とにかくやってみよう。』という考え方の人が多い。」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。チャレンジしてみたいけど、一歩目が踏み出せないといった場面にであったら、この言葉を思い出したいなと思います。

実際に自分の目で見たことで初めて気づくことも多く、充実した2週間だったと思います。この2週間で学んだことを今後に生かしていきたいです。今回の研修では多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。謝謝！



## 北京研修を終えて

比較社会文化学専攻博士前期1年 寺澤 貴恵

この研修に参加したのはほとんどが学部の1、2回生で、修士になってから研修に参加した人間は珍しいと思います。しかし、私はこれまで中国本土に行ったことがなかったため、この研修には大変関心がありました。というのも、以前在籍していた大学では、毎年計画されていた中国での語学研修は大変不人気で、4年間で実施された回数はゼロでした。私は当時第二外国語で中国語を学んでいたのですが、一度は中国本土に行ってみたくていたので、これはちょうどよい機会だと考えました。金銭的な問題もありましたが、幸い奨学金が大いに適用され、素晴らしく安値で研修に参加することが出来ました。

北京到着後、私は最年長ですから常に気を配るようにとの指示があり、アドバイザーの彭さんや先生方と協力

して学生たちを見守っていました。見守っていて気づいたのが、みんなともしっかりしているということです。午前は真面目に授業を受けて、午後には遠出したり、珍しい食べ物に挑戦していたり、メリハリがついていると感じました。大使館やCanonに訪問した際にも、積極的に質問しており、質問内容もバラエティーに富んでいました。

その訪問の時に、私は先方に同じ質問をしてみました。「学生時代に、何をしたらよりよいだろうか」というものです。記憶違いがあったら申し訳ないのですが、大使館の方々自身のエピソードを交え、「役に立つ立たないは考えず、まず行動してみよう」という答えをくださり、Canonの方々、「何か自分の武器を作り、磨くこと」だと答えてくださったかと思います。恐れず挑戦できることや、何かを突き詰めることが出来るのは、学生の特権であると思います。実際に働いているの方々から学生時代におけるアドバイスを頂けたことはもちろん、そのアドバイスに関して自分はどうなのかと考えることが出来た時間は、私を含めた学生たちにとって素晴らしい宝になりました。

一方、私の自由時間の過ごし方ですが、気疲れと体力のなさにより、あまり外出することができませんでした。珍しく行動するときには、大体一人でしたので、やむを得ず中国語での会話に挑戦しなければなりませんでしたが、それがかえっていい経験になりました。宿泊した学生寮で洗濯機のトラブルがあったのでフロントの人に助けを求めたり、デパートでおすすめのものをきいて買い物をしたりしていました。この時は自分の中国語でも通じるのだと充実感を感じていました。しかし、滞在最終日の前日に入ったデパートでは、会員になれば優待券がもらえるというセールスに捕まり、あせってしまっとうまく話すことが出来ず、最終的に逃げました。言語の学習以外にも、強い心が必要だということを学びました。

最後に、訪問させていただいた大使館とCanonの皆様、先生方やアドバイザーの彭さん、その他研修関係者の方々に、心からお礼申し上げます。今回の研修では貴重品が盗まれることがなかったという、素晴らしい結果になりました。この結果や今回の報告記事が、来年度の夏休み北京語学研修に参加する学生の役に立ってくれればと思います。

## 中国語短期語学研修報告書

理学部情報科学科1年 照井 雪乃

私は今回の研修に参加できた事を、嬉しく思っている。2週間、毎日が驚きや感動の連続で、自分の知らない世界を体験することができ、本当に楽しかった。

もともと、中国語を喋れるようになりたいという気持ちよりも、単に夏休みの時間を利用して、普段体験できないことがしたい、という軽い気持ちで、研修に参加した。実際、研修を終え、中国語が分かるようになりたいという気持ちは、格段に大きくなった。

中国は本当に面白かった。日本と隣接しているにも関わらず、私は中国のことを何も知らなかったのだと思い知らされた。中国を知ること、日本を客観的に観ることができ、母国をより深く知ることができた。特に面白かったのは、人だ。私は、全然日本人と違うと感じた。いい意味で、周りの目を気にせず自由で、日本では観ることのない光景をたくさん観ることができ、刺激的で楽しかった。現地にいるときは、私も自然と自由で楽な気持ちでいられた。また、フレンドリーな人が多かったのも、印象に残っている。

観光地巡りもとても楽しかった。どこも規模が大きく、圧倒的で、見応えがあった。頤和園の佛香閣からみた景色や、教科書の表紙になっていた天壇は、特に感動が大きかった。円明園の雰囲気だったり、景山公園から見た故宮だったり、什刹海で見た夕日だったり、印象に残った景色は挙げればキリがない。北京は都市にも関わらず、文化遺産や自然が沢山残っていて、魅力ある場所だなと感じた。

大使館・企業訪問は、とても良い体験だった。中国で働いている日本人の方々は沢山の異文化を感じて生活していて、そこから生まれるエピソードは、面白いものばかりだった。また、そのような方々の価値観や考え方は自分の視野を広げてくれて、とても為になった。

日本に帰ってきてから、中国での食事が恋しくなった。学食は日本では食べられないようなメニューばかりで、種類も豊富で美味しかった。饅頭は拳の1.5倍くらいの大きさでも8円程度と、破格だった。清真食堂のテイクアウトは、通いすぎて店員さんにまた来たのかと呆れられた。また、学校の近くのウイグル料理にも高頻度で通った。ここで食べる拉麺が本当に美味しくて、たまに思い出して切ない気持ちになる。最後に食べにいった日には、店員さんと写真を撮ることができて、とてもいい

思い出になった。

中国のことを知れば知るほど、面白い、もっと知りたい、現地の人ともっと喋ってみたい、と思った。また、自分の中にあった中国のイメージと中国での体験とのギャップから、身をもって体験することの大切さを強く感じた。中国はもちろん、他にも色々な国の文化や人、価値観を知りたい。こんな風に思うことは研修前にはなかったで、自分に変化をもたらしてくれた点で行って良かったと思う。



↑学食

## 中国で体験できたこと

生活科学部心理学科1年 中村 友泉

私は4月に中国語の授業で配布された案内で夏休みの中国研修の存在を知った。2週間も海外に滞在できる上に、中国語での授業を受けることができるなんてとても魅力的で、海外に行った経験がほとんどない私はすぐに参加することを決めた。無事に研修を終え、こうして報告書を書いているが、この研修に参加して本当に良かったと思っている。

終わってみれば2週間というのはすごく短い時間だったが、非常に濃い2週間だった。中国では、日本で体験できないことが沢山あった。値段を尋ねる度に違う値段を言ってくる超市の店員さん。中国語が分からないからお店に入ってもメニューが読めず注文できない。両替所でもどんな指示をされているのか分からない。言葉が通じないことがどれだけ不便なのか思い知らされた。

救われたのは中国の方々がとても優しくしたことだ。お店の方は言葉が通じない私の不安を拭い去ろうとするように笑顔を見せてくれた。両替所の方は英語も使って話してくれて、意思疎通をしようとしてくれた。現地の

大学での授業も中国語だったので最初は不安だったが、先生は私の拙い中国語を一生懸命理解しようとしてくれた。

授業後はいつも外に出かけ、様々な場所に行った。その生活に慣れてくると、段々と中国の方々とも臆することなく話せるようになった。毎日が冒険気分でもとてもワクワクした。

中国では楽しい経験も多かったが、怖い経験もした。まず王府井の小吃街でスリの現場を見た。スリがいるから気をつけなければいけないということは分かっていたが、まさか自分の目の前で起こると思っていなかったのが驚いた。幸い、今回の研修ではお茶大生は誰も持ち物を盗まれることがなかったので本当に良かった。もう一つ、道路を歩いていたら真横で自動車の衝突事故が起こった。中国の道路は本当に車が多くて混雑しているので十分起こりうることだが、これもまさか自分の真横で起こるとは思っていなかったのが怖かった。トラブルと常に隣り合わせなのだということを強く感じた。

今回の研修では、中国語の授業と観光だけではなく、現地企業や大使館の訪問も予定に入っていた。今回はキヤノンさんにお邪魔させていただき、社長の方や社員の方々に自由に質問させていただいた。大使館では大使館の方々と一緒に夕食をとりつつお話を聴かせていただいたのが印象的だった。どちらも滅多に聴くことができない興味深いお話を聴くことができ、貴重な経験となった。お時間を割いて私達に対応して下さったキヤノンの方々、大使館の方々、本当にありがとうございました。

研修に参加してみて、研修前よりも中国に対する印象が良くなった。中国語はまだ全然話せないけれど、中国語に対する親しみも湧いた。大学の中国語の授業も、研修中の中国語の授業で習った内容が出てくることがあるので研修前よりも少し理解しやすくなったように感じる。研修から帰ってきてから良いことがいっぱい。また中国に行きたい。次に行く時はもっと街中で中国語を使えるようになっていきたいので、中国語の勉強を今まで以上に頑張っていこうと思う。

行ってよかった！充実の14日間

文教育学部言語文化学科1年 馬場 千寛

私がこの短期語学研修に参加することを決めたのは、友達に参加するといっていたからという単純な理由です。はじめに親に「この研修に行きたい！」と主張した

時は、「軽い気持ちなら応援できない」と反対されましたが、大学生の夏休み、二ヶ月という期間の中で2週間海外に滞在することの大きな意味を見出したのち、絶対に充実した研修にすると誓い、許可してもらいました。1年生のうちに第二外国語に現地で触れておくことによって、今後のモチベーションを保ち続けることもできるだろうし、周囲の人たちが海外に行ったことがあると聞くと多少の出遅れ感や焦りを感じていた私に自信を与えてくれるかもしれないという主張をしたのです。今回の北京外国語大学での中国語語学研修は私にとって初めて海外へ行く機会でもあったこともあり、多くの発見と貴重な経験に溢れた14日間となりました。14日間のうち、休日を除いた10日間は北京外国語大学の中国人の先生が中国語で授業を行ってくださいました。先生は難しい単語や文法を、英語を交えながら丁寧に教えてくださり、中国語を勉強し始めてわずか五ヶ月足らずの私でも授業について行くことができました。また、選択された教科書も適切なレベルのものであったため、最終日の口頭試験前に、復習をしたら頭に自然と入っていきました。授業の間には気分転換に中国で人気の歌手や、有名な映画、アニメを見て、中国のサブカルチャーに触れることができました。“世界に一つだけの花”を中国語で聞いた時にはSMAPの偉大さを感じました。後期の中国語の授業でスルスルと理解できるくらい多くの語彙や文法を習得して日本に帰ってこれることができただけでも今回の研修に参加してよかったと考えています。

さらに今回の研修では全員で天安門広場(故宮博物院、景山公園)や万里の長城や明の十三陵、国家博物館を訪れる機会を用意してもらったため、現地のガイドさんの話を楽しく聴きながら有名な歴史的建造物や観光地を案内してもらえました。これは今回の研修の醍醐味の一つであると考えます。大使館やキヤノンへの企業訪問も企画してもらえたため、中国で働くという選択肢が自分の中にできるほど視野がぐんと広がりました。貴重な話を聞かせていただいた皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。毎日授業は午前中で終わったため、友人たちと近くにある観光地に地下鉄で向かい、町並みでネイティブの中国語を聴きながら、観光を楽しむことができました。小籠包や北京ダックや餃子など美味しい中華料理をたらふく食べました。不慣れな海外での生活でしたが、ストレスがたまることもなく毎日濃い思い出を作れました。来年もこのような研修があればぜひ参加したいです。

## 北京の風

文教育学部言語文化学科2年 瀨野 優

今回の北京語学研修は、私にとって二回目の訪中となりました。一回目は、友人と上海へ旅行目的で二泊三日の旅でしたが、二回目のこの研修では、中国語を学ぶために二週間と少し長めの時間を過ごしました。一度訪中したことがあるとはいえ、二週間も海外で生活したことがなかったため出発前はかなり不安が大きかったです。いざ中国の地に降り立ってしまえば、これからの二週間の生活に期待を膨らませるばかりでした。

まず現地に到着して初めて交流を持ったのは、アドバイザーの方でした。不安と期待でいっぱい私達を優しい笑顔で歓迎してくださり、観光について等、前々から準備してくださっていたのであろう様々な情報を伝えてくださいました。わからないことがあればアドバイザーの方に尋ねればよいという安心感を得たことが、今回の研修において大変ありがたかったと感じています。

日々の生活については、午前のオール中国語による授業、午後のフリータイムでの自由行動というような形でした。クラス分けテストで上のクラスになったものの、元々耳がよくない私はなかなか先生の言っていることを理解できず、スピード感のある授業では苦労したこともしばしばでした。しかし、担任の先生は非常に優しい方で、わからないことをわかるまで教えてくださる上に、北京の名所の名称を教えてくださいたり、一緒にランチに連れて行ってくださったり、中国映画を見せてくださったりと、趣向を凝らした授業構成をしてくださったおかげで、授業内容の他にも多くのことを学ぶことができました。先生とのランチでは、授業の中でゲームをして覚えた野菜と果物の名称を思い出しながら、実際に料理を目の前にすることができたので、強く印象に残っています。

午後の自由行動では、王府井、什刹海、南鑼鼓巷、前門、そして頤和園など、友人たちと地下鉄を駆使して様々な場所に足を運びました。中国は日本に比べて交通手段の価格が一段と安く、気軽に外に出ようと思えるので、本当にありがたいな、と思いながら移動していました。友人たちとの行動では、自分たちで中国語を使ったコミュニケーションをしなければならないので、自分の少ない語彙力、そして拙い発音と闘いながら、なんとか意思伝達をして買い物や観光を楽しみました。北京の方々がかかりフレンドリーで助かりました。母語の異なる相

手に伝えたいことを伝える、ということの難しさ、楽しさ、さらには度胸を得られる良い機会となったと思っています。

研修参加者全体では、天安門、長城に行き、中国の広さや長い歴史をこの身で感じる事ができました。また、Canon様、在中国日本国大使館様に訪問させていただき、日本と中国における考え方の違いや、中国での生活における苦労など、大変貴重なお話の数々を伺う事ができました。お忙しい中お時間をいただき、誠にありがとうございました。

この研修を通して、自らの中国語のスキルを上げるだけでなく、「中国」そのものに一步近づけたかな、と思います。この研修に尽力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

## 北京体感記

文教育学部言語文化学科1年 原 有佳里

北京に着いた時から、日本との違いを体験しました。北京空港でスーツケースを受け取りに行ったとき、東京ではしていたはずのスーツケースベルトが無くなっていたことに気づきました。先生に通訳してもらい職員さんに説明したのですが、どこで無くなったかわからないと言われ、諦めざるをえなくなってしまいました。レンタル品だったこともあり、初日から災難だと思っていましたが、しばらくして職員さんが渡してくれたのは、同じ便の荷物の中にあったという誰かのスーツケースベルトでした。他人の者を違う他人に渡すなんて、と日本ではやらなさそうな行為に戸惑いましたが、そのおかげで助かりました。(レンタル会社の方からは、中国で渡されたベルトの返却でかまわない、ということでした。外れないように巻くべきでした。)

緩さという点では、店員さんがスマートフォンをいじってばかりのお店もあつたり、交通ルールがひどかったりと、日本と比べて不満に思うこともありましたが、逆に日本がきっちりしすぎている、又はそれを求めすぎなのではないかと、途中から思うようになりました。他人を意識しすぎるのがなく、中国の緩さも慣れてしまえば楽に感じました。

北京に来て、自分がほとんど中国語を話せないことを痛感しました。中国語で話せない分は英語で補いたかったのですが、伝えたいことをすぐ英語に変換することもできず、まさか中国で英語の大切さに気づくとは思っても

していなかったことでした。逆に場所や人によっては簡単な英語も通じないということもありました。

また、中国の方はフレンドリーで、日本にいるよりも道行く人にものを尋ねられる事が多かったです。店員さんや清掃員の方とも話すことがあったのですが、こちらがほとんど話せないと言うことがわかって、どんどん中国語で話しかけてきてくれました。しかし私はほとんど聞き取れず、申し訳ない思いでいっぱいでした。こういったとき以上に中国語をもっと勉強したいと思ったときはありません。実際に中国に行くことができると本当に良かったと思います。

中国は警備が厳重で、観光地に行けば大抵警察らしい人達を見ます。近づきたい雰囲気があるのですが、鐘楼という場所の警備の人は帰るときに「慢走啊」と言ってくれて、それだけで感動しました。観光客も少なく、建物の階段はきついですがその分見晴らしもいいのでおすすめです。市民生活に近く、生活の様子を覗けたり、ドアのないトイレがあったりもしました。

最後に、大使館とキヤノンの職員の方々、貴重なお話をありがとうございました。実際に中国で生活しているからこそわかる実情や、海外勤務ゆえの大変さや面白さがうかがえてとても興味深かったです。

この充実した研修を企画、サポートして下さった方々に感謝申し上げます。

研修を終えて～中国ってすごい！～

文教育学部人文科学科1年 星野 伶奈

この研修は私にとって初めての中国、もとい初めての海外でした。空港に行くだけで緊張して、着いてからも食住に慣れずおにぎりを食べて日本に思いを馳せる……、ということは実は北京についたその日程度なもので、翌日からは非常に充実した研修生活を送っていました。

語学が苦手な私が中国語研修に参加したのは単純な理由で、語学へのやる気を上げて英語は出来なくても中国語は出来ると自慢したかったというとても恥ずかしいものでした。当然、研修中の授業は中国語を主に英語での訳文がついているので、結局英語の勉強もしていたような気がします。しかし、それは私にとって全く苦ではありませんでした。担当した下さった先生はとても明るく、質問には丁寧に答えてくださり、また分かりやすく説明して下さりました。中国語だけでなく休み時間に

は中国の音楽や映画などもたくさん紹介してくれ、中国そのものへの興味関心が高まりました。正直、1限が8時から始まるのが何よりも苦痛だったように感じます。

しかし朝が早い分、午後の時間は目一杯観光地を巡ることができました。まず、大学の敷地から一步出るとそこは日本とはまるで違う別世界のよう。犬は野放し、信号は青だけ電球切れ、上半身裸で道を行く男性（沢山いる。万里の長城でもいる）。日本人が気にしすぎなのか、中国が自由すぎなのか。最初は戸惑いますが慣れとは恐ろしいもので、帰国してから日本の道を歩いた時にはまた違和感を覚えるくらいには染まっけていて、信号が付くことに感動しました。主に移動は徒歩と地下鉄でしたが、地下鉄は日本よりも使いやすいです。池袋や新宿の巨大複雑怪奇迷路がどれほどの外国人を苦しめているのか（日本人でも迷う）。北京は想像よりもずっと発達していました。

北京で一番「行ってよかった！楽しかった！」という場所は什刹海です。街並みから漂う歴史、軒を連ねる多種多様な店。歩くだけでも



十分楽しめますが、中でも足漕ボートで湖をゆっくり周るのがおすすめです。適度に吹き抜ける風、水上から見渡す風景は爽快さ抜群で夏の暑い時期ならではのです。至る所にお茶の店があり、中国語で注文するのは緊張して大変でしたが、日本ではあまり見ない味のフルーツティーを飲みながら水面をゆらゆらするのはまた格別でした。挙げれば切りが無いほど歴史やグルメに触れられた2週間でもありました。



そして、この研修に参加しなければ経験できない貴重な機会もありました。大使館の方々のお話からは、日本しか知らなかった私にはどれも新鮮で永遠と聞いていたいものばかりでした。また、キヤノンの方々からは、海外で働く現場を生で感じ

ることができました。「日本人はやって良いよと言われ  
ないやらない。逆に中国人はやるなと言われなければ  
やって良いと考える」大使館の方が仰っていた言葉が本  
当にそうだなと感じる2週間でした。国が違えば考え方  
も違う、文化も違う、言語も違う。当たり前なことだと  
思われることでさえも、現地に行って、皮膚から空気か  
ら鼓膜から感じた全てで、互いの国を理解しあうことは  
楽しい、面白いと感じました。

#### 北京語学研修に参加して

文教育学部言語文化学科中文コース2年 松本 季依

二週間北京外国語大学の語学研修に参加したが、中国  
語や中国の文化や歴史について勉強している人にとって  
は本当に貴重な経験になったのではないと思う。

まず、授業についてだが、初日に簡単な口頭テストが  
行われ、そこでクラスわけが行われる。私は2年生クラ  
スに入った。授業はネイティブの先生がすべて中国語で  
進めていくと聞いていたのでついていけるか不安だった  
が、先生がゆっくり聞き取りやすい中国語で話してくれ  
るので辛くはなかった。北京外国語大学の教科書で学ん  
でいくが、だいたいHSK 4級くらいのレベルで帰国後に  
4級の試験を控えていた私にとってはちょうどよくとも  
ありがたかった。教科書だけではなく、中国の歌や映  
画などの鑑賞の時間もあり、楽しみながら中国語の勉強  
ができた。ただ、やはり確実に授業の内容を理解してい  
こうと思うなら前日の予習は必須だと感じた。教科書  
の本文は日常生活でも普通に使えるフレーズが多いの  
で覚えてしまうのが効率いいと思った。朝の8時から12  
時までが授業で残りはすべて自由時間なので北京をすべ  
て回りつくすつもりでいろんなところを観光しに行っ  
た。円明園や頤和園など景色がとてもきれいなところ  
が多い。北京の観光地は歴史的建造物などがとても多く、  
事前にもっと中国の歴史を勉強してから来ればもっと楽  
しめたかもしれないと後悔している。でも帰ってから歴  
史の勉強するやる気がわいて帰国後は歴史の本を何冊か  
買って勉強できた。語学研修の朝授業からの昼から観光  
というプログラムは、授業で学んだフレーズを午後街に  
出て実践的に使えるというインプットからアウトプット  
を一日で行えるという流れになっておりとてもよかつた。  
私はまだ「これはいくらですか?」「これもっと安く  
できませんか?」といった簡単なことしか話せないが、  
これが現地の人に通じたときはとても嬉しかったしさら

にもっと話せるようになりたいという中国語を勉強する  
上でのモチベーションにつながった。

ただ、観光地はとても人が多く、観光客を狙ったスリ  
なども起きやすいので用心する必要がある。また、蚊や  
ハエなどの虫も多いので虫よけグッズを常備するとい  
と感じた。

北京には、英語を話せる人が多くなく、街でもほとん  
どの人が中国語で会話しているので中国語ができないと  
一人では生きてはいけないと思った。しかし、英語や日  
本語に逃げ、甘えられる環境がない分中国語を上達させ  
る上では最適だと思った。中国の言語・文化・歴史に興  
味がある人には本当にオススメのプログラムなので、ぜ  
ひ参加してほしい。

#### 研修を終えて

生活科学部食物栄養学科1年 水野 佳菜

私は2週間の北京語学留学で授業、観光、企業訪問な  
どで様々な経験を積むことができました。授業を通して  
中国語の勉強が今までより深くできたことはもちろんで  
すが、実際に北京の街に出かけてみることで、中国語を  
使う機会が多く得られ、また生の中国語に触れる機会に  
恵まれました。お店に行っても、初めは店員さんが何を  
言っているのか全く理解できず、こちらの言葉も通じず、  
ジェスチャーでなんとかコミュニケーションをとる、と  
いうことが多かったです。しかし日が経つにつれ耳が慣  
れて行き、注文などは本当に最低限とはいえできるよう  
になりました。

研修に行く前に一番不安に思っていたのは「授業につ  
いていけるのか」ということでしたが、先生は英語を交  
えながら教えてくださり、ジェスチャーを交え、スクリー  
ンを使って画像をたくさん見せながら説明してください  
ました。そのため、非常にわかりやすく、楽しく授業を  
理解することができました。また休み時間には、中国の  
映画を見たり中国語の歌を聴いたり、日本語の歌の中国  
語版を聴いたりして過ごしました。先生のおかげで、私  
の中国語への理解はかなり深まったと思います。

授業が終わった後は、友人と様々なところに観光に行  
きました。観光に行く際欠かせなかったのが地下鉄でし  
た。中国の地下鉄の運賃は日本に比べて非常に安く、い  
ろいろなところに行ってみたく私たちとしてはとてもあ  
りがたかったです。観光に行った中で特に印象に残って  
いるのは、北京動物園、円明園、什刹海です。北京動物

園はとても広く、午後だけではとても回りきれませんでした。色々な動物を見ることができました。日本の上野動物園にいるパンダのシャンシャンを見るためには長蛇の列に並ばなければいけないですが、北京動物園には数匹パンダがいて、その周りは多少混雑していましたが、並ばずにパンダを見ることができたので驚きました。また園内はとても広いので船に乗って移動することができました。私たちは一度船に乗って移動しましたが、眺めがとても綺麗で感動しました。円明園にはイギリスとの間で起きたアロー戦争で破壊された庭園がそのまま残っていました。破壊されてしまった今も、とても綺麗な庭園ではありましたが、戦争の傷跡がしっかりと残っていて衝撃を受けました。什刹海では、足こぎボートに乗って景色を楽しみました。ボートがいるのと同じところを地元の方が何人も泳いでいたのが、日本ではなかなか見られない光景でかなり衝撃的でした。

そのほか食事也非常に美味しく、大使館やキヤノンの企業訪問をすることもでき、貴重な経験をたくさんできた2週間でした。機会があればまたぜひ中国に行きたいです。

#### 中国を「体感」！～新たな知見を得た2週間～

文教育学部言語文化学科2年 望月 優里

人生で初めての中国。今回の研修では少々の不安もあったが「ようやく中国に行ける！」というワクワクの方が圧倒的に強かった。というのも、私の知る中国は主に歴史の教科書やメディアから得た情報をもとにして作り上げられて来た。しかし「百聞は一見にしかず」と言うようにリアルな中国事情を捉えるためには自分の目で確かめるしかない！と思ったのだ。また私は二年次から中文コースに所属し、中国語や中国の文学や歴史の研究に励んでいるため、日頃の学びの成果を少しでも現地で実感できたら良いなと思った。参加してみて北京での2週間はあっという間だった。自由行動で私はグループの友達とかなりアクティブな計画を立て北京中を動き回った。毎晩ホテルで爆睡するほど疲れたが、非常に充実した時間を過ごすことができたので満足している。

学習面では、中国語の授業で上級クラスになり、最初は授業について行けるか不安だったが、できる限りの努力をしてわからないことは正直に聞こう！と決めた。オール中国語の授業は内容が瞬時に理解できず大変な部分もあったが、先生が優しく指導して下さったおかげ

で終始リラックスして受けることができた。きちんと質問に答えられたときは「非常好！」と言って褒めてくれたり、ご褒美にパンダのシールをくれたりしたのがとても嬉しかった。また、クラスメートの誕生日をお祝いするために先生と外に食事に出かけ、みんなで美味しい中華料理とケーキを囲んだのは特別な思い出だ。そして最後の謝礼会では生徒代表としてスピーチを任された。発表に向けて作った原稿を必死に覚えて何度も練習した。とても緊張したが貴重な体験ができたと感じる。

観光面では、自由行動の時間を利用して北京のありとあらゆる観光地を回った。初日は頤和園で園内の広さと自然の雄大さに圧倒し、最終日は朝から北京動物園でパンダを見て心を癒された。他にも、万里の長城、天安門、南鑼鼓巷など多くの場所を巡ったが特に印象深いのは、円明園と雑技だ。円明園は、見渡す限りの緑とハスの花が咲いた素敵な湖が広がる大きな公園で、歩いているだけで心が晴れる場所だった。一番の見所は、アロー戦争で英仏軍により略奪、放火された建造物で、当時破壊された状態のまま整備されていたが、大きな柱や立派な屋根がバラバラに砕かれており、戦闘の激しさを感じた。初めて見る雑技は、想像以上にアクロバティックで、終始ハラハラドキドキさせられた。男性のパワフルでスピーディな舞台から女性の華麗で美しい舞台まで内容は様々で見ていると全く飽きなかった。特にバイクが球体の中を駆け回るショーは迫力がすごくてライダーが衝突してしまわないか不安になったが無事に舞台が成功したときは心から感動した。それ以外に、普段では入れないような北京の日本大使館やキヤノンの北京支部なども訪問した。大使館では、在留日本人への対応や中国と日本での考え方の違いなどについて対話形式で職員の方々と交流し、新たな価値観を得ることができた。「日本の常識は海外の非常識」という言葉が印象に残る。キヤノンでは社員の方から会社説明や仕事の内容についてのお話を聞いた後、穏やかな雰囲気の中で中国に関連するあらゆる事柄について話し合った。中国の就職制度について学べたのは大きな手応えだと感じる。大使館やキヤノンでお世話になった皆様方、ありがとうございました。

研修を通じて中国を体全身で感じ、ますますこの国が大好きになった。良い面も悪い面も見えてきたけど、だからこそこれからも研究し続けたいと思う。本当に充実した2週間だった。

## 北京外国語大学短期研修を終えて

文教育学部言語文化学科1年 山口 明華

中国語は挨拶や数字の言い方程度しか分からない状態でこの研修に参加しましたが、2週間という短い期間で中国語がペラペラになるというわけには行きませんが、密度の濃い授業で語彙や発音などの力を向上させられたと感じます。中国語の先生はとても優しく、中国語初心者の私たちがより中国語に興味を持てるような映画や歌を紹介してくださったり、授業に関しては、語学力の向上というよりも、観光や生活に役立つ表現を多く学んだり、中国語への興味関心を増幅させる効果が大きかったと思います。

午後は毎日自由な時間だったのですが、この時間も中国について理解を深める上で貴重な時間になりました。19歳にして初めて中国を訪れて、この2週間で今まで持っていた中国のイメージが大きく変わりました。食については、とにかく中国料理は美味しかったです。北京に来ると3kgは太らないと帰れないと言われるほど、どこに行っても美味しいものがたくさんありました。また、食の安全性についても、確かに日本とは少し違う所もありますが、2週間色々な店で食事をしたけれども、お腹を壊すというようなことはありませんでした。水回りに関しては、トイレに紙を流せなかったり、水道から出て来る水がほんのり茶色がかっていたり、シャワーの水で髪が日に日に傷んでしまったりすることがありましたが、生活に不便するレベルではなく、必要最低限のことはしっかりとそろっているという印象でした。大使館を訪問させていただき、職員の方から、日本の常識は海外の非常識という話をいただいたのですが、その言葉の通りだと身をもって感じました。

また、自由時間に北京の様々な名所を観光したのですが、中国では日本語どころか英語も全く通じませんでした。しかし、午前中の授業で習った片言の中国語で注文してみたり、道を尋ねてみたりして、不自由なく楽しむことができました。北京市内だけでも、2週間では堪能しきれないほどたくさん名所があり、中国の歴史の深さや国土の広さをよく感じました。私自身、自分の足で街に出てみるということが本当に良い経験になったので、今後この研修に参加される方々にも、是非積極的に外に出てみることをお勧めします。

中国に着いてから初めての食事が大学内の食堂で食べたもので、全く口に合わず、その先2週間何も食べられ

ないのではないかと絶望を感じたところから始まった研修でしたが、その次の日に食べた北京ダックの味に感動し、毎日訪れる街並みの美しさに心動かされる日々でした。また、中国の方はとても優しく、接客や道案内をしていただく中で、心が温まることも多かったです。今でも、よく覚えているのが、什刹海を訪れた時に、近くの火鍋屋さんで、私たちの片言の中国語にウェイターの方が必死に接客をしてくださった時のことです。翻訳アプリを使って、きのこと伝えようとしてくださったのですが、日本語では菌と表示されて、くすりと笑ってしまうような出来事だったのですが、その時、国は違うけれど、人の心の温かさは共通だなと感じました。

最後に、貴重な話をお聞かせくださった大使館の皆様ならびにキヤノンの皆様にお礼申し上げます。

## 北京語学留学を経て

文教育学部人間社会科学科1年 山本 結智

8月19日から9月1日まで、北京外国語大学にて短期語学留学をしました。2週間、平日は午前中に授業があり午後は友だちと観光をし、休日は終日観光をするというかなり充実した14日間でした。元々この留学に参加した理由は、主に第二外国語として選択した中国語を学ぶ上で自分が体感的に中華文化を好きであるかどうかを知りたかったからです。北京は中国の首都であり、地域差はあれど“典型的な”中国の雰囲気を知るには絶好の機会だと考え応募した次第です。以下、私が北京にて感じたこと、考えさせられたことを述べていきます。中国は、日本は、という表現が度々出てきますが、あくまでも“私のコミュニティ内での(実体験上での)”中国、日本、という意味であることをあらかじめご了承ください。さて、率直に言うと、北京は私が想像した通りの中国でした。英語は全く通じず、技術は民間レベルでも発達しており(お店はキャッシュレスでの売買が当たり前)、街中にたくさんの警備の人がいること、高級ブランドのロゴがでかでかとかかかっている服やバッグや靴を身に付ける大勢の人等、予想通りだったことをあげたらきりがありません。そして驚いたことにどんなにみずばらしい身なりをしたご高齢の方もみんなスマートフォンを持っていました。また観光地にて子どもの多さとお年寄りの少なさに、改めて日本が超少子高齢社会であることに気付かされました。空気はさほどきれいではなく、臭いの酷い場所もあるし、寮の水はとても汚かったです。中国留学

を経て、中国人への印象がかなり変わったと思います。道ですれ違った中国人と少しぶつかってしまった時、ちゃんと「对不起」と謝ってくれる人や、レジで私と店員さんとの意思疎通を図ってくれた若い女の人の存在や、電車で隣に座っていたおじさんが私が日本人だとわかると突然ニコニコしながら自己紹介をしてきた人もいました。キャンパス内でいつも朝ご飯（手抓餅）を買いにいていた小さなお店があったのですが、ある時夕方の人がない時間帯に出向いたら、不愛想な印象だったお店の人が優しく「どこから来たの」等と優しくコミュニケーションを取ろうとしてくださったこともありました。そこには普段日本での生活の中で新聞やテレビなどでは見ることのできない情緒あふれる人の優しさを感じ取ることができました。民間レベルでのこうしたプラスの経験は、メディアから流れる国家間レベルの報道をもってしても中国に対して負の感情を抱くことのない思考へと導いてくれる大切なものだと考えます。これは実地経験がないとわからないことです。また北京の日本大使館に行ったことは私の中で非常に意味をもっていました。「留学」に関していろいろ悩みを持っていた私でしたが、外務省の職員の方々は非常に説得力を含んだアドバイスや新しい視点を私に与えてくださいました。まだまだ書きたいことはたくさんありますが、字数制限もありますのでこれをもって私の報告書とさせていただきます。ありがとうございました。

## 北京研修を終えて

文教育学部言語文化学科1年 吉川 雪絵

中高時代に留学経験もなく大学生活でも実家暮らしを続けている私にとって、2週間北京で生活するというのは今までにない経験であった。行く前は楽しみである反面、中国という国に対するイメージばかりが先行して不安な点も多くあった。衛生面、治安面などでは日本より劣るとするのが一般的に言われており、親元を離れて生活するのが始めてに近いため、自分で生活ができるかどうか、懸念が大きかった。しかし実際に二週間の留学生生活を体験して、意外にも順応して過ごすことは可能であると感じた。中国の物価の安さは想像以上であり、スーパーやコンビニなど大学の近くでも食事や日用品を用意することは簡単にできた。中国で驚いたこととして、スーパーの多さが挙げられる。日本でのコンビニに当たるもののような感覚なのか、道を歩いているとどこにで

もスーパーがあることが分かる。品揃えも豊富で、大学近くの少し大きめのスーパーなら、例えばカップラーメンだけでも物凄い種類が揃っていた。日本でもよく見るお菓子が中国語で記されているのをみると、つい分かる字を読んでどのように訳されているのか探してしまっただ。また、地下鉄の充実具合にも驚かされた。あまり海外の交通事情に詳しくないが、日本の鉄道は路線が多いが整然としており、慣れてしまえば表示に従って乗り換えも簡単にできる、また時間通りに運行するのでかなり便利な交通機関だと思っていた。しかし北京の地下鉄も負けず劣らず整っており、交通カードを手に入れば都度切符を買うこともせず乗ることができる。日本ほど細かく運賃が分けられてもいないので、大抵は3から5元程度で路線図を見るだけで交通費も分かって安心して乗車できた。午前の授業が終わるとほぼ毎日地下鉄に乗っているいろいろな観光地へ行ったが、特に迷うこともなく目的地へ着けたのは地下鉄の利便性に依るところが大きい。

観光の面に関していえば、天安門広場や故宮博物院、万里の長城など北京の中でも最も名所とされるような観光地へは全員で観光バスに乗って行けたことは有難いことであった。バスガイドの方のお話は興味深く、事前知識の乏しい私には初めて聞くことも多かったのもっと積極的に中国文化に触れようと痛感した。雑技や京劇は想像以上に美しく観客の心を掴むものであり、世界的にも有名であるそれらのレベルの高さに感動した。自由時間に個人で足を運んだ世界遺産や市街地も、それぞれのもつ空気感を存分に楽しむことができた。食事も予想していたよりずっとよい環境で、安価で美味しい食事にたくさん出会うことができた。大使館訪問やキャンパス見学も有意義なお話を聞くことができ、現地の方々に感謝しています。

今回の研修を経て、私はもともと中高の世界史や漢文の授業での最低限の知識しかなく、それすらも忘れかけていたので中国史や中国文学についてまた勉強しなおしたいと思う機会となった。それに伴って中国という国の文化を学校の授業で扱う歴史、文学の面だけではなく、もっと広い意味で中国の文化について理解したいと思った。さらには中国について学ぶといっても既にある過去の文献についてがほとんどであったため、現在の中国の姿、今を生きる中国の人々やその暮らしの面にも目を向け、これから発展に注意深く目を向けていきたい。



## 北京語学研修を終えて

文教育学部言語文化学科2年 吉田 恵

私は2年次にこの研修に参加した。1年生の時に参加しようかとは思っていたのだが、それまで海外に一度も行ったことのなかった私には、海外で2週間過ごすということは少しハードルが高かったのだ。しかし2年生になって、中国語・中国文学を専攻するようになり、やはり1度は自分の目で、対象とする中国という国を見てみた方がよいのではないかと思ったため、今回参加を決断した。

結論から言うと、2週間はとても短かった。昨年同じ研修に参加した友人に同じことを言われたときには「絶対嘘だろ」と思っていたが、やはり私も同じ感想を抱いた。今回は同じ専攻の友人2人とずっと一緒に行動できたこともあり、多分時間があつという間に過ぎたのだろう。

この研修で印象に残ったことを挙げていこうと思う。まずは食べ物である。私は辛いものやスパイスの効いたものがあまり得意ではないので、正直北京に行く前は食べ物のことを一番心配していた。実際に北京に行ってみて、第1週目は知らない料理の連続だった。日本にあまりない味付けの料理も多く、おいしいけれど食べ慣れな

いな、という印象を抱いた。また、ほとんどの飲み物がかなり甘くて、緑茶の微糖がめちゃくちゃ甘かったのが個人的に衝撃だった（学校近くのセブンイレブンにおーいお茶の無糖があったので、この件の後はそれを買うようにした）。それでも、日がたつにつれて中国の料理の味に慣れ、第2週には、授業で勉強した野菜や果物の名前を思い出して、自分の好み通りの料理を注文できるようになった。

次に、日常生活においてである。1年間中国語を勉強しているため、何人か集まれば日常会話はどうかカタコトで何とかなるレベルにはなっていた。なので、中国に滞在している間はかなりアクティブに動き回ることができた。到着して2日目にしてぶっつけ本番で現地の銀行で両替したり、交通系ICカードを購入したりしたのは中々大変だったが、どうか協力して無事目的を達成できたことは2週間過ごしていくにあたり、すごく自信になった。

最後に、大使館や現地のCanonを訪問したことである。インターンシップなどで日本の企業を訪れることはあっても、中々外国にある企業を訪れる機会はないので、とても良い経験になった。今までは、「外国で働く」ということについて全く考えたことがなかったが、職員の方々が自分の想像以上に生き生きとしていらっしゃったことがとても印象的だった。

この研修に参加することを散々ためらっていた私だが、勇気を出して参加してみて本当に良かったと思っている。これも、ひとえに様々な場面でサポートして下さった先生方や、アドバイザーの彭さんなど、たくさんの方に支えられて無事に研修を終了できたからこそだと思う。本当にありがとうございました。

### \*\*\*アドバイザーから\*\*\*

#### 北京研修の報告書

北京外国語大学日本語学部2年 彭 語心

今回の研修を通して、日本人の真面目さ、優しさに対し感動しました。

皆さんと万里の長城や故宮博物館に行き、更に、北京外国語大学についても案内させていただきました。中国の歴史に触れていただき、皆さんの反応を見ている限り、日本にいた頃より一層中国の事を知ってもらえたと思いますし、好きになってもらえたのではないかと思います。

今回の研修に関して、二週間という短い時間ではありましたが、中国語を学ぶ学生たちにとっては貴重な経験になったのではないかと思います。中国語の能力上達以外に、実際現地に行き経験することにより、元あった中国に対する偏見や考えを覆すことが出来ると思います。

最後に、もしまた機会がありましたら、是非中国に、北京外国語大学に遊びに来ていただきたいです。皆様のこれからに、中国と何かしらの縁がある事を祈っております。



### \*\*\*引率教員から\*\*\*

#### 北京研修を終えて

外国語教育センター 水津 有理

夏の北京研修からはや二ヶ月がたつ。皆さんの記憶にいま一番くっきり刻まれているのはどんなことだろうか。

私自身のはじめての中国は大学二年の冬、高校生の研修旅行の世話役として行ったものだった。中国語専攻の学生だったとはいえ、不出来で不勉強だった私は、失敗も情けない思いも数々し、おまけにひどい風邪もひいてしまったが、通りすがりの見知らぬ中国人に何やら随分親切にしてもらったなと思う。オレンジ色の気のぬけた炭酸ジュースの味、スープに入っていた穂のような形のきのこ、凍えるように寒かった南京大学の講堂など、全体に夢のようにぼんやりした断片的な記憶のなかで不思議なほどはつきりと「外は寒いですよ、暖かくしなさい」と声をかけられたことを覚えている。南京から武漢に向かう船の上でのことだった。いま振り返ると、私にとってはそれが、知識として学んでいたことばが血の通ったものとして聞こえた最初の瞬間だったのだろう。

中国語教員として今回の研修に期待していたのは、参加者の皆さんにもそんな瞬間がありますようにということだった。教室で学んでいることばが、(当たり前のことだが)現地で実際に日々使われているものだという事。私たちと同じくいまを生きている人々の生活のなかにある、心の通ったものであることを体感して欲しい。そして簡単なこと、ブロークンな中国語でもいいから、ことばが通じるよろこび、コミュニケーションできる楽しさを知ってもらいたい。出発前のオリエンテーションや羽田空港で搭乗を待つあいだ、引率を通じて皆さんのそんな瞬間を目の当たりにできたらとても嬉しいだろうなあと思っていた。

とはいえ、実のところ最初の何日かはとにかく皆がちゃんと食べているかを心配してばかりいた。最初の晩はビュッフェスタイルの教員用食堂で慌ただしく夕食をとったが、見慣れぬ料理の数々に「ああ、失敗した」「こんな味だと思わなかった」「なんだこりゃ」と心で泣いた人も多かっただろう。「美味しい」とまでは思えなくてもそれなりに口に合い、空腹を満たせる手堅い食べ物をみつけれられるか。簡単なようだけれども、これもまた異国で生活をしていく上ではとても大切なことだ。こちら

の心配をよそに、学生さんたちはすぐにいろんな店、自分なりのサバイバル法を発見したようで、私が一週間の引率を終えるころには、現地の人たちと変わらぬ様子で朝の軽食を片手に歩くすがたとすれ違い、「こんなものが美味しかった」「あの店が安かった」などこちらが教えてもらうようになったが。

今回の研修は多くの学生にとって、とりわけ中国語をはじめ半年にも満たない一年生にとっては、生活のすべてが小さなチャレンジの積み重ねだっただろうと思う。大学の寮での共同生活も、多少の英語を交えただけのほぼ中国語のみの授業も、交通カードを入手して現地のバスや地下鉄に乗ることも、一つ一つが新しい体験だ。そんななか、午前中のハードな授業もなんのその、午後や休日は活発に外に出かけ、足を使い、覚えてたの中国語を使い、頭をフル回転させて色々なことを吸収していく過程を間近でみられたことはやはり嬉しい体験だった。また、ことばの通じなさも不自由さも楽しんでパワーにかえ、小さなトラブルくらいは笑い飛ばして解決してしまう女子学生の底力を感じた一週間でもあった。

在北京の日本大使館での質疑応答の時間、「今後社会に出て働いていくために、学生時代に何をしておいたらよいですか」という質問に、大使館員の方が「やれること、やりたいことは何でもやりなさい。そして仕事を続けていける体力をつけておきなさい」と答えてくださったことを覚えている人も多いと思う。この研修が、皆さんの学生時代の充実につながる一助になることを、そして「やりたいこと」リストに中国語が今後も載りつづけてくれることを心から祈っている。

学生の皆さん、楽しい時間をありがとう。また一緒に中国に行きましょう。そして、この研修に力を貸してくださった多くの方々に、心から感謝申し上げます。

## 汉语短期研修项目报告（中国語短期語学研修プロジェクト報告）

外国語教育センター 陳 暁

2018年8月下旬至9月初，我作为带队老师之一，带领学生前往中国北京・北京外国语大学，参加了为期两周的“汉语短期研修项目（中国語短期語学研修）”。这是我第一次作为带队老师参与这个项目。在出发前，得到了和田老师、水津老师、竹野老师和鸟居先生（毎日エデュケーション）的多方面照顾，聆听到了很多经验和注意事项，使我顺利地进行了很多准备。

此次研修，我主要负责后半段。前半段在水津老师与和田老师的带队下，学生顺利地到达了北京外国语大学，并且入住宿舍。最初学生们不太了解中国大学宿舍中一些设备的使用方法，多亏水津老师、和田老师与北京外国语大学的向导彭语心同学的细心说明，学生们才可以较快适应当地的生活，并且开始了前半段的学习。北京外国语大学的成苗老师和陈晶晶老师负责授课，两位老师不仅有丰富地教育经验，对学生也很热情和关心。通过前半段的学习，学生们已经学到了一些地道的汉语表达方式，并可以在日常购物、购票及用餐时使用。

我负责的后半段主要包括学生们第二周的汉语学习，以及访问佳能（Canon）驻北京分公司、参观中国国家博物馆、观看京剧、最后的研修考试和欢送会。

在佳能（Canon）公司访问期间，学生们很积极地与社长及员工交流，不仅包括生活中的知识，还包括学习工作中的感想。社长及员工询问了学生们学习汉语的契机，学生们都很认真积极地进行了回答；学生们又询问了就职道路上的经验，社长及员工也进行了热情细致地说明。

在参观中国国家博物馆期间，大家都很好地遵守了集合时间，在博物馆中对自己感兴趣的展馆进行了细致参观，很多学生都对中国古代的出土文物感兴趣。另外，由于国家博物馆位于天安门附近，因此这一区域的游客甚多，学生们在移动过程中都紧跟队伍，没有随意走动，所以顺利地完成了参观，准时回到了客车中。

在观看京剧时，学生们也非常认真，并且体现出了兴趣。原本不太了解京剧的学生，也对京剧很称赞。他们观察了京剧演员的化妆，观赏了三种不同类型的京剧片段。我询问了一些学生最喜欢哪个片段，有的学生喜欢服装华丽、舞姿优美的片段；有的学生喜欢场面宏伟的高难度武戏；有的学生喜欢体现人物细腻心理活动的情节。总之，学生们都进行了认真的观看，并且也留下了较深的印象。

在自由活动时间，学生们游览了北京很多的名胜古迹和大街小巷。例如，颐和园、圆明园、什刹海、南锣鼓巷、王府井和西单等地。还吃到了各种中国菜和小吃，例如，火锅、小笼包、饺子、担担面、茶味冰淇淋、粥和传统糕点等。

在最后的欢送会中，学生们又一起品尝了北京外国大学的美味菜肴，中文学科的学生们作为代表，用汉语分享了他们研修期间的感想，不仅包括他们学到的汉语知识，还有对中国的菜肴、建筑、交通、人们的热情态度以及北京外国语大学的感想。

成苗和陈晶晶两位老师对学生们的评价甚高，他们称赞所有学生的上课态度都非常认真，并且从来没有迟到、早

退或是缺勤的现象，体现出了很高的学习素质和积极的学习态度。两位老师对这次的研修授课非常满意。

通过两周的研修学习，学生们的汉语水平得到了提高，对中国文化也产生了新的认识和兴趣，尤其还锻炼了实际的日常交流能力和在外国生活的适应能力。特别是有的学生大大提高了听力水平，因为在整个大环境都说汉语的情况下，使得学生们更积极仔细地去听对方的发音和话语内容，并且需要迅速做出应对，这是语言学习中最重要的环节之一，也是对自身应对能力的良好锻炼。

最后，向给予我多方照顾的和田老师、水津老师、竹野老师和鸟居先生表示衷心感谢，并且也对北京外国语大学方面的成苗老师、陈晶晶老师、彭语心同学、陈小明老师以及对此次研修付出过辛勤劳动的老师们表示衷心感谢。另外，也诚挚感谢参加此次研修的学生们，有了他们的努力学习和认真配合，才能顺利完成整个研修活动。



記念撮影



授業風景





会食の様子





## 2018年中国語短期語学研修報告書

中国語語学研修準備・実施委員会 編

(和田英信、水津有理、陳曉)

2019年3月発行